

女性ならではの視点を生かして
女性と子どもの病院ガイド
あそび・まなびネット広島著 南々社 2004年9月発行



「あそび・まなびネット広島」は、子ども・女性・高齢者・障害者といった多様な視点から、“暮らし”をテーマにした情報を発信するグループです。『女性と子どもの病院ガイド』は、この「あそび・まなびネット広島」の女性メンバー9人が取材・執筆を担当しました。もともと広島の子育て情報を集め、発信する活動をしていたメンバーたち。女性や子どものニーズに応える手掛かりになればと、平成15年(2003年)8月からプロジェクトを開始しました。

まず、医療機関に関するアンケートを県内の20歳以上の女性に実施。その結果をもとに、満足度の高い医療機関を半年掛かりで取材・執筆しました。総勢137施設が掲載された、ボリュームのあるく広島版・医療と健康ガイドブック>となっています。出産経験者が本音で話し合う座談会や、出産・子育てに関するミニコラムなど、読み物としても楽しめます。

毎号、いろいろなメニューが楽しめる「らしっくCafé」。
コーヒーの代わりに生涯学習や市民活動に役立つ本やHPなど、
いろんな情報をご用意して、
みなさまのご来店をお待ちしています。
さて、今回のご注文の品は…?



新しいボランティアの波を感じよう
まちづくり曼陀羅
日下部眞一編 大学教育出版 1999年6月発行



「慈善」や「奉仕活動」としてスタートした日本のボランティア活動は、「市民参加活動」あるいは「市民公益活動」としての働きも持つようになりました。NPOという可能性を秘めた、新しい形のボランティア活動が数多く生まれはじめています。
さまざまな分野で活躍するボランティアの先駆者が、体験談や独自のボランティア論を語る『まちづくり曼陀羅』。広島を中心とした、多様な市民活動の交流ネットワークによって作られた本です。環境保全や身体障害者へのサポート、国際協力など、ジャンルにとらわれないボランティアに関する情報がぎっしり詰まっています。またそれぞれの分野での第一人者が執筆しているだけに、活動の柱となる思想や哲学は参考になるものばかり。多種多様な視点から、ボランティアの“今”を見極めてみませんか。

※ここで紹介している本は、まちづくり市民交流プラザ3階図書閲覧コーナーでご覧になれます。

レトロバスにかける熱い思いが満載
レトロバス復元物語
～失われたロマンティズムを求めて～
レトロバス復元の会編集発行 2004年11月発行

平成16年(2004年)3月28日、「日本最初の路線バス復元の会」によって復元された“レトロバス”が、太田川の河川敷沿いをパレードしました。『レトロバス復元物語』は、このレトロバス復元事業を盛り立て、実行を支えた人々の記録です。その規模は非常に大きく、多くの企業やボランティア団体を巻き込んだ一大プロジェクトであったことがうかがわれます。

バスの組み立てを引き受けた「おやじ活性化委員会」の活躍のほか、レトロバスにまつわる巷談「かよ物語」、絵本風にまとめられた「日本最初の国産バス物語」を掲載しています。バスづくりの奮闘や、パレードでの苦労談なども。ふんだんに使われた写真とともに、「レトロバス復元」の軌跡をたどることができます。限定出版につき、広島市内の図書館・公民館で閲覧可能です。



広島の会社が市民の“エンジョイ”を応援してくれる、おもしろスポットをピックアップ!

ひろしまの会社のおもしろ
PSPOT

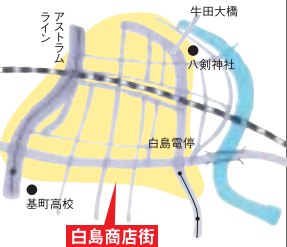
募金・回収活動

今回は、環境・福祉・社会貢献などさまざまな分野に活用されている募金・回収活動の特集です。

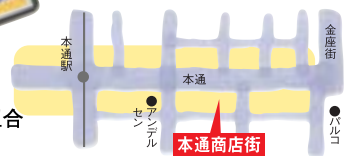
イオングループ(マックスバリュ西日本株式会社ほか)
幸せの黄色いレシートキャンペーン
毎月11日の「イオン・デー」には、イオングループ全店のレシートが黄色に変わります。これは、平成13年(2001年)11月にスタートした、ボランティア団体に希望物品を贈る「幸せの黄色いレシートキャンペーン」のためです。買い物客は、店内に設置された投かんボックスに書かれている活動内容を見て、支援したい団体に投かんすることが出来ます。そして約半年間にたまったレシートの合計金額の1%相当の物品が、投かんされた各団体に贈られます。
市内では、ザ・ビッグ安古市・五日市・戸坂各店、マックスバリュ可部西・高陽各店、ウエルマート相田店ほか、ジャスコ宇品・みゆき各店にも投かんボックスがあります。これまで県内の団体には、ボールペンや電化製品、プリンターなどが贈られました。



空き街プルトップ・使用済み割りばしを回収 白島商店会
早くから環境問題に取り組んでいる白島商店会では、15店舗が店頭で空き街のプルトップを回収しています。年間5000キロほど集まるプルトップは、山口県の養護学校へ送り、車椅子の購入資金に使われています。方、使用済み割りばしは、年間1トン近く集めて呉市の製紙会社まで運び、再資源化しています。「この地域では、回収活動が当たり前の感覚になっています」と、白島商店会の隠居主会長。7年以上続く回収活動は、地域にしっかりと定着しているようです。

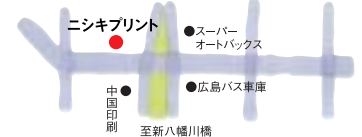


市民球場建て替えにカードで「現代版たる募金」 広島本通商店街振興組合
市民の大きな関心事である市民球場建て替え問題。球場に近い、広島本通商店街振興組合は、現在地での早期建て替えを要望しています。そのために商店街として何が出来るかを考えた結果が、クレジットカード「本通カード」(入会金・年会費永年無料)の発行でした。会員の買い物利用金額の一定割合を、商店街が募金として積み立てる仕組みになっています。積み立てた資金は、球場の建て替え費用だけでなく、完成後も何らかの形でカープ球団を支援するために活用するそうです。同商店街振興組合の高田論理事は「今できる最良の方法がカードの発行。消費者に一切負担をかけない、商店街の心意気を買ってください」とアピールしています。



広島本通商店街振興組合
広島市中区本通8-18
TEL082-248-1518

「広島ハーネスの会」を支援 株式会社ニシキプリント
4年前、仕事上のつながりが縁で、玄関を入つてすぐの所にオレンジ色の募金箱を設置しました。集まったお金は、盲導犬への理解と普及に努める団体「広島ハーネスの会」に贈ります。財布の中身を軽くしたい時や、たまたま会社の近くでお金を拾った時など、社員の皆さんはさりげなくお金を入れます。もちろん、訪問した人は誰でも入れることができます。同社は、売り上げの一部が社会福祉施設に還元される「SEIIP自動販売機」を設置したり、交通弱者のためにボランティア団体に協力して広島市中心部のバリアフリー・トイレをマップにまとめたりと、社会貢献活動に積極的です。宮崎真社長は「募金も社会貢献活動の一つ。こうした活動はすでに社員に根付いています」と話します。



株式会社ニシキプリント
広島市西区商工センター7-5-33
TEL082-277-6954



えいち
「H」……それは“英知”すぐれた知恵であり、“叡智”深遠な道理をさとる優れた才知でもある。生涯学習のある暮らし、そんな広島の“H(えいち)”をお届けするコーナー。

E Campus

エイチ・キャンパス

未来を支える教育を目指したい 〜広島県高等教育機関協議会〜

―まず、広島県高等教育機関協議会が発足したきっかけは

昨今、教育機関には多様なニーズが求められ、コンソーシアム(協議会)を結成する動きが全国的に見られます。広島でも、学ぶ意欲を持った学生や社会人に、より多くの学習機会を提供しようと、平成10年(1998年)10月、30の大学・短期大学が参加した「広島県高等教育機関協議会」を発足しました。大学間の交流を図り、高等教育の向上を目指すという狙いもあります。

―どのような事業をしていますか

①大学間連携 ②高大連携 ③生涯学習という、3つの事業が柱となっています。①の大学間連携は、学生が自分の大学で開講していない科目や学びたい他大学の科目を受講できるよう実施しているものです。協議会に参加している大学なら、自分の大学以外で単位を取得できます。②の高大連携も①と同様、高校生を対象に、大学が講義を公開するプログラムです。

広島県生涯学習センターを拠点とした社会人向けの事業が、③の生涯学習です。社会人向けの講座案内をホームページ上で紹介するほか、複数の大学が協同して講座を開催しています。一つの大学が主管となって企画・運営を行う「ぱれっとカレッジ」や、まちづくり市民交流プラザで実施している「シティカレッジ」も生涯学習事業に当たります。

―シティカレッジはどんな講座ですか
テーマに沿った内容の講義を、1〜3カ月ほどの期間で実施します。注目してほしいのは、広島経済大学ならば「ビジネスマンのための経済学再入門」、広島文教女子大学なら「ストレスと心理学」をテーマにするなど、大学それぞれの特色を打ち出して講義を展開しているところです。各大学が知恵を絞っていますので、興味のある方はぜひ聴講してみてください。

―大学の講義と協議会主催の講義との違いは

自分が所属している大学の講義なら、学生たちの知的レベルや雰囲気がかつていますから、講師としても講義内容が大体想像できます。しかし社会人となると、講義がどのように展開していくか予測が難しいんです。逆にそれが、講義自体の質を向上させてくれるとも言えます。

―今後の協議会としての目標は

まずは地域的なエリアの拡大ですね。広島市内にとどまらず、遠隔地での事業も視野に入れていきたいですし、近隣の大学や高校などとも提携していく考えです。

広島で教育にかかわる一人として、「地域の子どもは、地域で育てたい」という強い思いがあります。広島県教育機関で真の人材を育てることで、良い人材が広島に集まり、将来の日本を支えていくことができます。

Information
広島県高等教育機関協議会
〒732-0052
広島市東区光町二丁目1-14
TEL・FAX 082-568-4860
E-mail koto-k@mx41.tiki.ne.jp
URL http://www41.tiki.ne.jp/koto-k/toppage.htm



総合委員会委員長を務める
岡本貞雄教授

Hキャン レポート

「たべもの植物の話」が大好評

〜榊井秀雄さん〜

まちづくり市民交流プラザや草津公民館で「たべもの植物の話」の講座が大好評でした。講座を受け持った榊井秀雄さんは、鈴峯女子短期大学の教授です。今回の講座は、専門分野を離れてのお話となりました。

10月1日〜29日の毎週金曜日に、草津公民館で「たべもの植物の歴史」の講座が開催されました。

今回の講座では、万葉集などの古典文学が登場し、自然科学の分野ではない視点からも植物の変遷をとらえました。「たべもの植物の変遷をとらえたもの。食用の植物が輸入されて日本中に広まってきた過程は、日本内外の歴史の流れにきれいに符合しています。その面白さが講義に

にじみ出ていけばうれしい」と、榊井さんは微笑みます。実際に顕微鏡をのぞいて、植物の細胞や環境の微生物を観察する時間も設けられました。科学の分野はとつきにくいと思われがちですが、榊井さんの手にかかれば「雑学」に変わってしまふようです。また、榊井さんの巧みな話術も、受講生の心をとらえて離さない要因の一つ。受講生からは「面白くて時間

をぶれました」

との感想が聞かれました。

榊井さんにはちよとした夢があります。

それは「広島の子どもたちを科学好きにしたい!」ということなのです。

「学校で理科を学ぶ前に、外でうんと遊んでおいてほしい。たとえば花を摘んだり、トンボをとったり、ブランコやシーソーで遊んだりするのが立派な科学の勉強なのです。私も一緒に遊んでもっと遊びの中から科学を見つけさせてあげたいですね」と、子どもに向けた科学教育の構想を語っていただきました。マンガ喫茶ならぬ「科学喫茶」を開店し、マスターになって科学談義を繰り広げたいという計画もあるとか……。

大学内ばかりでなくさまざまな機会へ広がっていくことが、榊井さんの夢の実現の第一歩となるでしょう。

今回の講座は、まちづくり市民交流プラザの「シティカレッジ」から公民館の市民アカデミー事業へ展開したものです。



実際に、オオムギで植物の不思議に迫りました

社会人のためのリカレント講座 Linux集中シリーズ

①初心者向け講座

はじめてのLinux集中講義

オープンソースとして世界から期待されている、新しいオペレーティングシステム「Linux」。インストールからビジネスソフトウェアまで、1人1台、パソコンを使って実際に操作しながら学べます。

▼日程 2月9日から25日の水・金曜日
(2/11は祝日のため2/10に実施)
▼時間 午後6時半〜9時(全6回)
▼場所 〓まちづくり市民交流プラザ
▼募集人数 〓30人(応募多数の場合は抽選)
▼費用 〓受講料3,750円+テキスト代3,570円
▼申込 〓〆切 1月28日(金)必着

②中級者向け講座

Linuxでの一般情報処理集中講義

Linux上で動作するさまざまなコマンドを学習するとともに、美文書作成ツール・Latex・Tgif・GNUPLOT・GIMPなどを使った文書作成やグラフィック処理を学べます。より深いLinuxの知識を身につけたい方が対象です。

講座案内

▼日程 〓3月2日から18日の水・金曜日
▼時間 〓午後6時半〜9時(全6回)
▼場所 〓まちづくり市民交流プラザ
▼募集人数 〓30人(応募多数の場合は抽選)
▼費用 〓受講料3,750円+テキスト代2,940円
▼申込 〓〆切 2月16日(水)必着

<お詫びと訂正>



VOL.9 瑞穂号の「Hキャンパス」特集「インターネット英語学習プログラムを探ろう」(P.16)で、パソコン画面に写っている画像は「インターネット英語学習プログラム」の画面ではありませんでした。正しくは左の通りです。

<申込方法>

住所・氏名・電話番号を記入の上、まちづくり市民交流プラザの「はじめてのLinux集中講義」係もしくは「一般情報処理集中講義」係まで申し込んでください。電話、はがき、ファクスで受け付けています。ホームページからも応募できます。
住所 〓〒730-0036 中区袋町6-36
広島市まちづくり市民交流プラザ
電話 〓082-545-3911 ファクス 〓082-545-3838
ホームページ 〓
<http://ichimura.chi.its.hiroshima-cu.ac.jp/plaza/>

「気が引き締まる」という着物姿で和裁をする小田幸子さん

おださちこ 小田幸子さん
エンジョイきもの同好会

着物通し日本の心を伝える

季節の行事を企画

日本の美しい民族衣装―着物。持つてはいるけど、着る機会がないという人は多いのではないのでしょうか。小田幸子さんが代表を務める「エンジョイきもの同好会」では、初もうでに花見、紅葉狩り、夏にはビアガーデンで乾杯といった季節に応じたイベントを企画し、着物で集まる場をつくって楽しんでいます。

豊かな心を取り戻すために

小田さんの専門は和裁。専門学校で教えていたこともあり、洋裁が流行していたころ、ほかの人と違うことをしようと選んだのが和裁の道。縫うと着たくなり、着ると出掛けたくなり……。次第にその魅力に取り付かれ、結婚後は家庭でも着物で過ごすほどでした。

しかし、「和裁ってなんですか」

力を注ぐシヨ―

着物離れが進む中、同好会は各地でシヨ―を開催して着物に親しむ機会を提供しています。BGMに合わせてステージに立つのは男性も含めたメンバー。小田さんは着物の説明、絵柄の意味や小物の名前の由来、それぞれの着物がたどってきた歴史を語って観客を引き付けます。今までに、公民館

オーストラリアの高校で
着物文化について講演

やまちづくり市民交流プラザ、さらに海外ではオーストラリアのオペラハウスでも開いてきました。

また昨年は、県立美術館で開催された「日本のおしゃれ展」に合わせて、着物で本通りを歩く「着物行列」を実施。とうかさへ行く人に着付けをするグループの指導にも行きました。

和裁の仕事、趣味の少林寺拳法や乗馬……と多忙な小田さん。睡眠は毎日約3時間。1月23日(日)午後2時から広島駅南口地下エールエール玄関前広場で予定している「きもの花道ファッションシヨ―」の準備も加わり、今、精力的に動いています。

「成人式には着物で行こう」

「今年の正月には着物を出してみよう」と、袖を通すきっかけにしてみよう、これまでに以上に着物に力を入れたいと決意を新たにしています。

本通りを練り歩いた
「着物行列」

家庭用品の有害性に警鐘

グリーン・コンシューマーとは

自然を材料とした化粧品や洗剤が人気を集めています。しかし、それらは本当に安全でしょうか？

グリーン・コンシューマーとは、環境に配慮した商品を選ぶ消費者のことをいいます。菅英滋さんは「環境や健康に配慮した商品を選ぶことで社会や企業に働き掛け、安全に暮らせる世の中をつくらうとする消費者」だと考えています。

そういう消費者を増やそうと、菅さんは法律(薬事法・家庭用品品質表示法など)に基づく「安全」

な家庭用品の選び方を伝え、洗剤・シャンプー・歯磨き粉・化粧品などに含まれる化学物質の有害性を訴えています。それらは、海や川を汚すだけではなく、口や皮膚から体内に入り、人体をも汚染するのです。出産前の女性の場合は、胎児に影響を及ぼすこともあります。

学生ころ能美島に住んでいた菅さんは、船で高校へ通っていました。年々海が汚れていくことを不

賢い消費者に

環境問題に関心が高いヨーロッパでは、消費者の2〜3割が不便でも環境に良いものを選びます。しかし日本ではごくわずか。この割合が1割を超えると、企業は消費者の声を無視できなくなります。

環境問題に関心が高いヨーロッパでは、消費者の2〜3割が不便でも環境に良いものを選びます。しかし日本ではごくわずか。この割合が1割を超えると、企業は消費者の声を無視できなくなります。

紙や卵を使った実験で、
合成界面活性剤が体内に入る仕組みを説明

れ、その結果を背負うしかないのです。安くて便利だからといって、このまま有害物を使い続ければ、胎児や乳幼児が一番の被害者になります。安全な商品を選択することが家族の健康を守り、地球を守ることに繋がります。

「私は研究者でも専門家でもありません。同じ生活者の目線です。事実だけを伝えていきたい」と菅さん。「あそここのラーメンはおいしいよ」という感覚で、「〇〇の商品には、旧指定成分が入っているよ」という会話が世間話でされることが理想だと語ってくれました。「これから子どもを生んで育てる女性にもっと関心を持つてもらいたい」と方法を模索しています。

「まちづくり人材バンク発表会」で
菅さんの説明に強い関心を示す来場者

合成洗剤やシャンプー、歯磨き粉、化粧品などに含まれる化学物質の危険性について話す菅英滋さん

すが えいじ 菅英滋さん
グリーン・コンシューマー

子どもと地球を守ろう

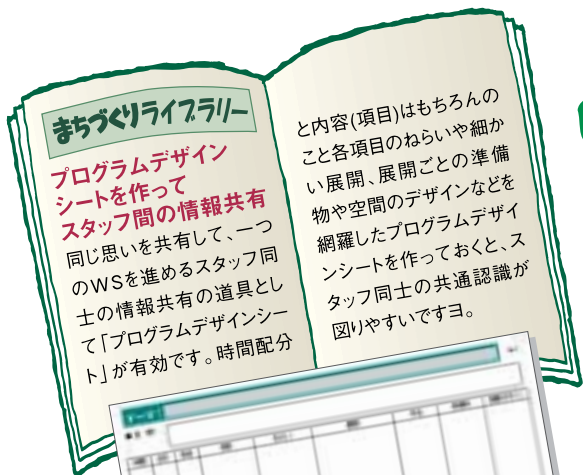
子どもは生まれてくる環境を選べません。大人の選択を受け入

Information

●今回「達人図鑑」で紹介している方々は、「ボランティア人材バンク」に登録されています。

●ボランティア人材バンクは、「仕事や学習、趣味などで得たノウハウを生かして、ボランティアで依頼団体に助言や指導、さらには技の披露などを行う人」を登録しているリストです。

紹介申込・登録申込などのお問い合わせは…
まちづくり市民交流プラザ
TEL 082-545-3911 FAX 082-545-3838

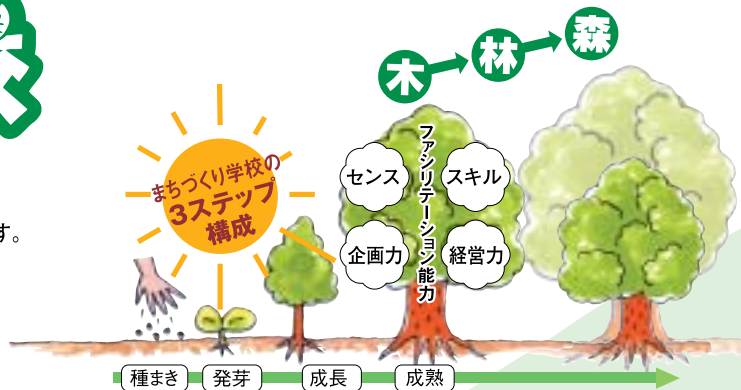


ひろしま まちづくり学校

まちづくり活動に参加している人・参加したい人集まれ!

●まちづくり活動を進めたい人のためのファシリテーター育成セミナー●

さまざまなまちづくり活動の場面で役立つファシリテーション技術を、3カ年にわたり継続してステップアップしていく講座です。



ワークショップ(以下、WS)は参加・体験型の学びの場であり、参加者の相互作用による創造の場。ファシリテーター(進行役)は、話し合いの中で参加者の思いを引き出したりその気にさせたりする役割を担います。その中でも、「情報の共有」や「小さな意見を拾う」ときの小ワザを紹介します。

情報を共有するための小ワザ

WSを進めるとき、共通の情報を参加者同士で共有することが重要となつてきます。事前にお知らせしておくのも一つの方法ですが、WS当日にスライドや寸劇などの演出で情報を伝えることも効果的です。

スライドショーやマップに情報を盛り込んで…

フィールドとなる現地の写真をスライドショーにして解説しながら紹介すると、日ごろ生活をしている場所でも



スライドショーでフィールド紹介(手元にはマップを配布)

小さな意見を拾う小ワザ

WSは、和やかな雰囲気づくりやブレインストーミング(効率的にアイデアを生み出すための手法)、アイデアラッシュ(ばつと思いついた段階のアイデア)などの手法を使い、参加者から多くの意見や着想を引き出していきます。引き出された意見が今後どのようなに生かされるのか、その場で採用にならなかったものがどうなるのかを事前に知らされているかどうかで、参加者の安心感は違ってきます。「たくさん出しても無駄になるのでは?」、「こんな意見を出して笑われないかな?」などの心の壁もひと工夫で取り除くことができます。

『未来の芽』で安心感

今回の熟練編では、二葉山をフィールドに選んだグループが、日本一の群生地でもある二葉山のシリブカガシのどんぐりに押し

WSのねらいに合わせた切り口で物事を考えてもらう動機付けになります。また、スライドショーの写真や絵などの地域情報を盛り込んだマップを用意しておく、まち全体を再確認でき、視覚的に状況をイメージできます。



二葉の里の資源マップを使ってイベントのアイデア出し

寸劇で問題提起をする

今回の熟練編では、地域住民が交流できる「ほっとステーション」づくりをテ



舞台は、地域に住む親子の会話「テレビゲームばかりしてないで……」

ピンをくっつけ、「未来の芽」と称して取り上げられなかった意見にどんぐりピンをつけていきました。今後のイベントの企画会議の中で取り上げていく材料とすることを伝え、参加者に安心感を持たせる試みをしました。



企画案に取り上げられなかったアイデアは、どんぐりの押しピンを付けて「未来の芽」に

『ゆりかご』でアイデアを育む

子育て支援をテーマに取り組んだグループでは、子育てをしていない学生や忙しいサラリーマンでも何かできることを感じ、子育て支援に生かそうという気持ちになってもらうことを目標にWSを行いました。まずは、自分ができることを出し合い、それが子育てや子育て支援にどうつながるのか、ア

ーマに取り組んだグループが、WSの導入で課題や問題提起したい内容を寸劇仕立てで伝える方法をとりました。これにより、目的を分かりやすく伝えることができ、参加者の緊張を解きほぐす効果もあります。スタッフの個性や特技に合わせて配役をすると、その演出に引き込まれて、その後のWSの展開に入りやすくなります。



カラフルな色使いで楽しい雰囲気作りをするために、まずはペンの持ち方から…

このほか、ファシリテーショングラフィックという手法も代表的な方法です。全員が見える場所に模造紙を貼り、会議や話し合いの中で出てきた意見を書き留めていきます。参加者は聞いてもらえているという安心感が得られたり、関連性(分類)や課題が見え全体で共有できます。熟練編では、ファシリテーショングラフィックの効果や描き方を学びました。



できることがいっぱい詰まった「ゆりかご」

アイデアを出し合いました。具体的に子育て支援につながりなくとも参加者の「できること」は大切に育んでいくというイメージで、それらを書いた付箋紙を「ゆりかご」の絵の描いてあるスペースに張り出していきました。

このように参加者に対して、意見を大切にするという安心感を与えたり、今後の取り組みの中に資源として生かしていくことを伝えたりすることで、多くの良い意見やアイデアが引き出されていく場づくりにつながっていきます。